令和元年度社会教育施設評価書(目標設定·実施結果)

施設名 近代美術館

金評	達成	(目標値≥100%)	0
達価基	ほぼ達成	(目標値≥80%)	\triangle
多 進	未達	(目標値<80%)	×

〇全館共通項目

〇全館共通項目						不连 (日保順へのの/の/ へ
		取組の内容		自己点検		
		1年間の 目標値	実現方策	達成値	騰	課題・対応の方向
利用状況	満 利 足 度 者	90%	アンテン アン示見 でれ が き し で た た た た た た た た た た た た た た た た た た	93.7%	0	全般的に評価は前年度より高かった。引き続き満足度向上に努める。
	入館者	80,469人	一層の集客 を図る	99, 451 人	0	葉山館は熱源改修工事の影響で一部展 覧会が開催できなかったが、鎌倉別館の 再開館もあり、入館者数は増加した。引 き続き入館者の増加に努める。
	業への参加者と	増加させる (※前々 年度) 3,621人	ニース`を汲み 充実を図る	6, 068 人	0	ワークショップ、ギャラリートーク等の 充実を図り、参加者の増加につながっ た。
	トアクセス	増加させ る (前年度) 735,824 件	改修したホーム ページを活用 して訪問者 のニーズに応 える	777, 829 件	0	情報の即時反映に努め、引き続きアクセスの増につなげていく。
資料·収蔵品	活	増加させる	県民共有の 財産との観 点から有効 活用に努め る		0	館内展示利用数及び館外貸出件数が増加しており、財産の有効活用が図られており、引き続き財産の有効活用に努める。
		(前年度) 286 点	館内展示利 用数	351 点		
	用	33 件	特別利用許 可申請数	29 件		
		15 件	館外貸出件	22 件		
		37 件	画像貸出件数	33 件		
		371 件	計	435 件		
	維持管理	美術保では一番に環境を維持	PFにの求し取 事存持め、て扱 をとな施 をとな施	ほぼ達成	\triangle	葉山館においては、一部温湿度が乱れることもあったが、要求水準を守り、要請した光熱水費の高騰を抑えるための省エネ運転を行った。 鎌倉別館においては、再開館後、提示した運転スケジュールを実施できない等、改善点がみられたため、PFI事業者への働きかけを強めていく。

	(発表・印刷物等)研究成果の公開	増加させる	研究成果を 積極的に公 開し美術館 員の学術成 果を発信す る		\triangle	研修会の講師派遣数及び研究集会の発表件数は増加したが、文献等の執筆数、競争的外部資金の獲得件数は減少した。 文献等の執筆等の充実を図りながら、成果発表の場を増やせるよう努める。
調査	等)	(前年度) 39 件	文献等の執 筆数	27 件		
金研究		18 件	研修会の講 師派遣数	23 件		
		8件	研究集会で の発表件数	10 件		
		6件	競争的外部 資金の獲得 件数	4件		
		71 件	計	64 件		
情報発信	事業情報の発	増加させ る (前年度) 2,541件	ツイッターフォロワー数	3,041 件	0	電子媒体を使った活動は昨年度に比べ 発信の頻度が高まった。今後は引き続き コンテンツの拡大を図るとともに、新聞 記事等でも更に取り上げられるよう努 める。
	発信	9件	プレスリリース数	11 件		め のな。
		265 件	記事等掲載数	222 件		
		2,827件	計	3,274件		
	事業等収入	53, 222千円	展覧会の鑑賞民の鑑賞民の大学のでは、大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大	32, 764 千円	×	鎌倉別館の再開館や葉山館の展覧会が 好調であったこともあり、入館者数は増加したが、無料ポスター公開や葉山館の 熱源改修工事に伴う展示休止及び新型 コロナウイルス感染症の影響により、収 入額は減少した。
施設運営等	施設点検	(記述式) 一層魅力 あるを作る		職FF者に所合か行りし箇繕反て員」と修やが確っ、た所計映い自事と繕不な認て発修は画さる。ままも箇具いをお見繕修にせ	0	誰にも開かれたインクルーシブな美術館を目指し、点検結果を修繕計画や事業計画に反映させ、適切な施設点検を行っていく。

積極的に ではいる。 では、 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではい。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	議等参 I件数 - 成30年 : 31回 - 和元年 : 27回	他の美術館との情報交換・共有等、積極的な交流を行ったが、年度末は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、参加件数は減少した。職員の研鑽に努め、館の運営に役立てる。
---	---	--

- 注) 各論は各館独自の取組みを中心に評価項目や指標を設定する。
- ※ 平成30年度は展覧会(アルヴァ・アアルト展)と連動した実験的なワークショップ を実施し、3,200人が参加した。目標設定にあたり、通年をベースとするため、平成29 年度を数値目標とした。